

草の根技術協力事業

大崎町のリサイクル技術をインドネシアへ

事業概要

参加者：チーム大崎

鹿児島県大崎町行政職員・そおりサイクルセンター・
NPOものネットクラブ・大崎町町民

相手国：インドネシア・バリ州
(2012年～2015年はデポック市)

協力内容：大崎町の廃棄物処理技術を研修員に伝授。
廃棄物方法の指導マニュアルを作成。
行政職員へセミナー・研修。

大崎町の背景、取り組み



- ・27品目を分別回収するなど、住民参加型のごみ処理技術でごみのリサイクル率日本一を10年連続獲得（2017年）。
- ・大崎町民全員に根付く「混ぜればごみ、分ければ資源」の意識で、リサイクル率は全国平均の4倍。
- ・市民に対する環境学習など充実した研修体制。

インドネシアの課題と成果

課題 行政職員がごみ分別へ無関心
取り組み チーム大崎が研修教材作成、現地の市職員に対する研修・セミナーをすることで分別が定着化する。

課題 廃棄物処理技術の不足
取り組み 大崎町のリサイクル技術がチーム大崎の現場指導・指導マニュアルを通じ住民へ伝承される。

結果 バリ州の住環境・衛生面の改善

大崎町への波及効果



自分たちの取り組みに誇り、技術の再発見や強化

- ・人口約13,000人の大崎町と比べて大規模都市のバリ州（400万人以上）のごみ問題改善に、自分たちのノウハウが役立っているという事実が自分たちのごみ分別を再評価や点検するきっかけになっている。
- ・大崎町民の廃棄物管理システムを維持するモチベーションになっている。
- ・大崎町としては、リサイクルノウハウの輸出も検討中。